

日本ハム株式会社  
サステナビリティファイナンス・フレームワーク  
2022年9月

## 1. 発行体概要

日本ハムグループ（以下、当社グループといいます。）は、日本ハム(株)（以下、当社といいます。）と子会社 70 社及び関連会社 7 社で構成され、各事業を管轄する事業本部とその位置付けは以下のとおりです。

### 〔加工事業本部〕

加工事業本部は、主に国内においてハム・ソーセージ及び加工食品の製造・販売を行っております。当社及び製造子会社の日本ハムファクトリー(株)、南日本ハム(株)、日本ハム食品(株)及び日本ハム惣菜(株)等が製造を行い、当社及び全国に販売拠点を有する販売子会社の日本ハムマーケティング(株)等を通じて販売を行っております。また、子会社の(株)宝幸及び日本ルナ(株)によって、主に国内において乳製品の製造・販売を行っております。

### 〔食肉事業本部〕

食肉事業本部は、主に国内において食肉の生産・販売を行っております。子会社の日本ホワイトファーム(株)、インターファーム(株)等が豚及びブロイラーの生産飼育を行い、子会社の日本フードパッカー(株)等が処理・加工を行った食肉製品と、海外事業本部管轄の食肉販売子会社や外部から仕入れた食肉商品を、当社及び全国に販売拠点を有する販売子会社の東日本フード(株)、関東日本フード(株)、中日本フード(株)及び西日本フード(株)等を通じて販売しております。

### 〔海外事業本部〕

海外事業本部は、海外子会社及び海外関連会社を管轄しており、子会社の NH Foods Australia Pty. Ltd.、Whyalla Beef Pty. Ltd.、Day-Lee Foods, Inc.及び Thai Nippon Foods Co., Ltd.等が、主にハム・ソーセージ、加工食品、食肉及び水産物の生産・製造・販売を行っております。

## 2. 企業理念

1. わが社は、『食べる喜び』を基本のテーマとし、時代を画する文化を創造し、社会に貢献する。
2. わが社は、従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場として存在する。

## 3. 経営理念

1. 高邁な理想をかかげ、その実現への不退転の意志をもって行動する。
2. 人に学び、人を育て、人によって育てられる。
3. 時代の要請に応じて時代をつくる。

4. 品質・サービスを通して、縁を拡げ、縁あるすべての人々に対する責任を果たす。
5. 高度に機能的な有機体をめざす。

#### 4. ニッポンハムグループのサステナビリティ

企業に対して事業活動を通じた社会課題の解決を求める声が高まっている中、ニッポンハムグループは、「持続可能性（サステナビリティ）」を追求し、E（環境）・S（社会）・G（ガバナンス）において、さまざまな施策に取り組んでいます。また、SDGsの達成のために期待されている役割を認識し、それぞれの課題の解決に向けた活動を展開しています。2021年3月には、2030年における「ありたい姿」を描いた「Vision2030」を策定するとともに、このビジョンの実現に向けて優先的に取り組むべき「5つのマテリアリティ（重要課題）」を特定しました。事業戦略とマテリアリティの実践を通じたサステナビリティ戦略を両輪で進めることで、事業を通じた社会課題の解決に努めていきます。当社グループは、これまでも「食べる喜び」を基本のテーマとし、時代を画する文化を創造し、社会に貢献することを企業理念として掲げてきました。これからも多様な食シーンを創出し続け、持続可能な社会の形成に寄与していきます。



##### 4-1. ニッポンハムグループ「Vision2030」“たんぱく質を、もっと自由に。”

当社グループは、体の1/5を占め、人が生きる上で欠かせない栄養素である「たんぱく質」に、創業以来向き合ってきました。この「たんぱく質」をベースに安全・安心でおいしい食品を安定的にお届けしていく責任と使命は変わりませんが、これに加え、外部環境の変化に伴う課題と、ライフスタイルの変化に伴う多様な食シーンにもしっかりと取り組んでいくべく、2021年3月に「Vision2030」を策定しました。

「Vision2030」は、これまでの提供価値である「安全・安心」「おいしさ」に加え、常識

にとらわれない「自由」な発想で「たんぱく質」の可能性を広げることで、社会環境や人々のライフスタイルの変化に対応する多様な食シーンを創出し、毎日の幸せな食生活を支え続けたいという当社グループの想いを「2030年におけるありたい姿」として表現しています。

#### 4-2. 5つのマテリアリティ(重要課題)

当社グループは、「Vision2030」の策定を機に、従来の「5つの重要課題」を見直し、「Vision2030」の実現に向けて優先的に解決すべき社会課題を「5つのマテリアリティ(重要課題)」として再特定しました。特定にあたっては、国際的な動向やイニシアティブ等の社会からの要請、当社グループを取り巻く事業環境を踏まえつつ、ステークホルダーの視点と自社視点の両面から評価・検討を行いました。



#### 〔5つのマテリアリティ〕

- ① たんぱく質の安定調達・供給： 世界的な人口増や気候変動などに伴い、たんぱく質の供給難が予測されておりますが、ニッポン火腿グループはたんぱく質の安定調達と供給を目指します。これまでの品質に対する安全・安心への取り組みに加え、サプライチェーンにおける環境や人権・動物福祉などの社会側面を配慮しつつ、多様なたんぱく質への取り組みを推進してまいります。
- ② 食の多様化と健康への対応： ライフスタイルなどの変化に伴い、食においても多様な対応が求められております。様々なニーズに合わせた商品の開発とサービスの提供により、楽しく健やかに暮らしに貢献してまいります。
- ③ 持続可能な地域環境への貢献： 気候変動や食品ロス、海洋プラスチックなど地球環境を取り巻く様々な課題がある中、ニッポン火腿グループの事業は自然からの恵みをいただくことで成り立っており、バリューチェーンを通じて温室効果ガスや食品ロス、プラスチックなどの課題解決に向けての取り組みを推進してまいります。
- ④ 食やスポーツを通じた地域・社会との共創共栄： ニッポン火腿グループは「良き

企業市民」として食やスポーツなどを通じた繋がりを深め、共に歩み・発展すること  
 で愛され信頼される企業を目指してまいります。

- ⑤ 従業員の成長と多様性の尊重： ニッポンハムグループは「従業員が真の幸せと生き甲斐を求める場」となることを目指しております。一人ひとりを尊重し、それぞれが持てる力を発揮・活躍できる環境づくりを推進してまいります。

#### 4-3. 環境 (E)

当社グループは、自然の恵みに感謝し、持続可能な社会の実現に向けて、環境と調和のとれた企業活動を推進します。

ニッポンハムグループはこれまで、3カ年ごとの中期経営計画において活動の環境負荷低減を目指した環境目標を策定してきました。今回、「Vision2030」と「5つのマテリアリティ」の策定にあわせて、中長期的な視点で、2030年をゴールとする新たな環境目標を策定しました。「5つのマテリアリティ」の一つである「持続可能な地球環境への貢献」に基づき、気候変動への対応、省資源・資源循環、生物多様性の対応を重点項目とし、それぞれに目標を設定しています。

〔中長期環境目標（～2030年度）〕

社会課題	施策・指標
気候変動への対応	2030年度までに化石燃料由来のCO2排出量46%以上削減（2013年度比：国内）※
	家畜由来の温室効果ガスの削減に向けて研究開発を推進・支援し、革新的な技術をつくり出すことに努める
省資源・資源循環	2030年度までに水使用量5%削減（2019年度比：製造数量当たりの原単位）※
	2030年度までに廃棄物排出量5%削減（2019年度比：製造数量当たりの原単位）※
	2030年度までに廃棄物排出量リサイクル率92%以上※
	国内外の拠点において水リスクの高い地域を特定し、それぞれの地域の事情に応じたリスク低減策を講じ、持続的な水資源の利用を行う
生物多様性の対応	2030年度までにRSPO認証パーム油使用率100%（B&C含む）

※中長期環境目標については国内における目標

#### 4-4. 人と社会 (S)

当社グループは、お客様、地域の皆様、お取引先様、株主・投資家、従業員などのステークホルダーの皆様からの期待、信頼に応える企業活動を推進します。

- お客様とのコミュニケーション：消費者志向経営を推進するため、消費者の声を「聴く」「知る」「活かす」のコミュニケーションサイクルを循環させ、消費者の満足度向上と商品・サービスの改善につなげます。
- 人権の尊重：ニッポンハムグループでは、人は「宝」「財産」であるという思いから「人財」とし、基本的な権利である人権の尊重を重要な社会的責任であると認識しています。「ニッポンハムグループ行動基準」において、よりよい企業風土をつくるため、基本的人権の尊重のため、性別、年齢、国籍、宗教、信条または社会的身分、障がいの有無などを理由に差別的な扱いや嫌がらせを行わないことを定めています。また、お取引やサプライチェーン上で人権問題が起こらないよう、ニッポンハムグループ CSR 調達方針及び、ニッポンハムグループ CSR 調達ガイドラインを定めています。
- 健康および労働安全衛生：ニッポンハムグループの企業理念を実現するためには、すべての従業員がこころもからだも健康で安全に働くことが大前提です。従業員が笑顔で安心して働くことができる職場環境づくりに取り組んでいます。
- 人財育成とダイバーシティ：ニッポンハムグループは企業理念に、「わが社は、従業員の真の幸せと生きがいを求める場として存在する」と掲げています。多様な価値観を持つ従業員一人ひとりが能力を精一杯発揮することが、グループを成長・発展させるとともに社会への貢献につながると考えているためです。ニッポンハムグループは、多様な人財が生き生きと活躍できる職場づくりを目指します。
- 社会貢献活動：ニッポンハムグループは、徳島県を発祥の地とし、関西、日本全国、そして世界へと事業を展開してきました。そして、現在では、日本をはじめ世界各国に約 600 の拠点を展開しています。それぞれの国や地域には、長い歴史の中で育まれた文化、慣習などがあります。ニッポンハムグループは、これらを正しく理解し、その遵守と尊重に努めています。
- サプライチェーンへの取り組み：企業理念の実現、また「5つのマテリアリティ（重要課題）」の解決にあたっては、ニッポンハムグループが積極的に取り組みを推進するのみならず、サプライチェーンの皆様と共に取り組むことが、持続可能な社会の実現に向けて、より効果的であると考えています。

#### 4-5. コーポレート・ガバナンス (G)

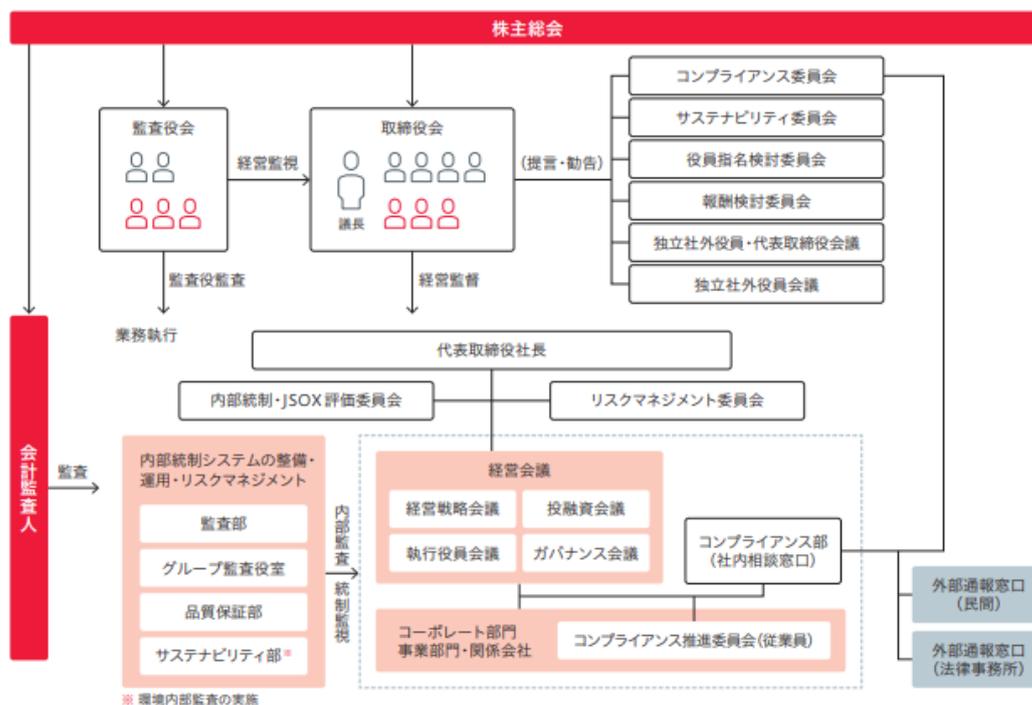
当社グループは、企業としての社会的責任を果たすとともに、当社グループの企業理念を実現するために、「ニッポンハムグループ・コーポレートガバナンス基本方針」をもとにした最適なガバナンス体制を構築しています。運営にあたっては、グループ全体の経営の透明性と効率性を高め、迅速かつ適正な意思決定と業務執行の適正性を確保し、積極果敢な経営

判断を可能にするとともに、その責任を明確にすることを基本としています。

## コーポレート・ガバナンス体制

コーポレート・ガバナンスの体制図

社内 社外



## 5. サステナビリティファイナンスの活用意義

当社グループは、サステナビリティファイナンスを通じ、お客さま、地域・社会、株主・投資家、従業員をはじめとするステークホルダーに対し、改めて「5つのマテリアリティ」などで掲げるサステナビリティへの取組みを発信します。こうしてステークホルダーからの「信頼」を高め、当社の持続的な成長につなげることを目的としております。

## 6. サステナビリティファイナンス・フレームワーク

本フレームワークは、国際資本市場協会 (ICMA) が定めるサステナビリティボンド・ガイドライン 2018、環境省のグリーンボンドガイドライン (2020年版) に適合しており、以下4つの柱について定めています。当社は、このフレームワークに基づき、サステナビリティファイナンスを実行してまいります。

1. 調達資金の用途
2. プロジェクトの評価と選定のプロセス
3. 調達資金の管理
4. レポーティング

## 6-1. 調達資金の用途

サステナビリティファイナンスで調達された資金は、以下の適格クライテリアを満たす「HOKKAIDO BALL PARK F VILLAGE(北海道ボールパーク F ビレッジ)」の新球場 (ES CON FIELD HOKKAIDO (エスコン フィールド HOKKAIDO)) 建設に関する支出またはリファイナンスに充当する予定です。リファイナンスの対象となるルックバック期間は、サステナビリティボンドの発行またはサステナビリティローンの実行から遡って36 カ月以内となります。

	適格カテゴリー	適格クライテリア
グリーンプロジェクト	グリーンビルディング	DBJ Green Building 認証における5つ星
ソーシャルプロジェクト	必要不可欠なサービスへのアクセス向上	<p>(受益層①) 障がい者・高齢者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多機能トイレ</li> <li>・車いす利用者専用駐車場</li> <li>・車いす用の観戦スペース</li> <li>・盲導犬との同伴観戦スペース</li> <li>・スロープ</li> <li>・3 塁側ゲート大階段のエスカレーター</li> </ul> <p>(受益層②) 自然災害の罹災者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・備蓄倉庫</li> </ul> <p>(受益層③) 若年層の弱者グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供向け無料遊具</li> <li>・多機能トイレ</li> <li>・スロープ</li> </ul> <p>(受益層④) 外国人等のマイノリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市公園内における案内板の多言語表記</li> </ul>

### 【対象となる新球場の概要】

- ・当社グループは、北海道北広島市における新球場とボールパークの開業(2023 年を予定)にむけて準備を進めています。
- ・建築面積5 万平方メートル、収容人数は3 万 5000 人で、地下2 階の掘り込み式のフィールドを基点に地上6 階建てまで観客エリアが広がります。屋根は2 枚構造で、うち1 枚が

可動するリトラクタブル・ルーフを採用しています。天然芝の生育を促すため、開閉時間も考慮されています。

・新球場は、周辺環境との調和を第一に考え、建物中層部にテラスや屋上庭園を造るなど、地域に溶け込むデザインになっています。

【対象となる新球場のコンセプト】

『“北海道のシンボル”となる空間を創造する』

食とスポーツを有機的に融合させることで健康を育み、道民・市民・ファンの皆様が愛着と誇りを持つ施設を目指します。

【イメージ画像】



特徴的なガラス壁面が織り成す圧倒的な開放感の実現



天然芝フィールドを実現する開閉式屋根



周囲の自然に溶け込む建築デザイン

## 6-2. プロジェクトの評価と選定のプロセス

### <環境・社会リスクの低減>

ボールパーク建設予定地や新しく整備を検討している道路の予定地周辺には、森林が広がっており、環境に配慮し、自然と共生した施設にするため、北広島市においてこの地域での環境調査が行われています。また、土地の造成を行うために必要な埋蔵文化財の調査も実施しています。環境調査については、今後もそれぞれの季節で引き続き実施する調査結果に基づき、自然環境を守るための対応策を検討することになっています。

対象事業の評価と選定のプロセスについては、当社の経理財務部が適格クライテリアに適合していることを確認し、経理財務部の担当役員が最終決定を行います。

## 6-3. 調達資金の管理

サステナビリティファイナンスにより調達した資金は、償還されるまでの間、当社の経理財務部にて内部管理システム・帳票等を用いて年次で充当状況を管理します。

なお、調達資金の充当が決定されるまでの間、現金または現金同等物にて管理する予定です。

## 6-4. レポーティング

調達資金の全額が充当されるまでの間、年に一回、充当状況を当社ウェブサイト上（「ニッポンハムグループ統合報告書」等）で開示します。

調達資金の充当後に資金状況の大きな変化が発生した場合には、調達資金の充当状況を示すレポートを当社のウェブサイト上にて適宜公表します。

① 資金充当状況のレポートニング

- 充当金額
- 未充当金の残高
- 調達資金のうちファイナンスに充当された部分の概算額（または割合）

② インパクトレポートニング

調達資金の全額が充当されるまでの間、守秘義務の範囲内、かつ、合理的に実行可能な限りにおいて、年に一回、以下の情報を当社ウェブサイト上（「ニッポンナムグループ統合報告書」等）で開示します。

	適格カテゴリー	環境改善効果および社会改善効果
グリーンプロジェクト	グリーンビルディング	(建設期間中) ・ 認証取得手続きの進捗状況 (竣工後) ・ 環境認証の一覧 ・ エネルギー使用量 ・ CO2 排出量 ・ 水使用量
ソーシャルプロジェクト	必要不可欠なサービスへのアクセス向上	・ 車いす利用者専用駐車場の設置規模 ・ 多機能トイレの設置数 ・ 車いす用の観戦スペース規模 ・ 盲導犬との同伴観戦スペース規模 ・ スロープの設置数 ・ 3 塁側ゲート大階段のエスカレーター の設置数 ・ 備蓄倉庫における非常食等の備蓄量・子供向け無料遊具の設置数 ・ 都市公園内における多言語表記案内板の設置数

以上